えほんだより

みるみる No. 7

令和４年12月23日（金）

平田村立ひらたこども園

今年も気づけば、忙しい年末がやってまいりました。生活発表会やお楽しみ会など大きな園行事が終わり、大掃除に取り掛からなくてはいけない頃になりましたね！季節の移り変わりは早足で通り過ぎましたが、節目節目には、子ども達も多くの経験を重ねてきました。日本の伝統文化にふれるたびに、物事の「由来」というものの大切さを実感します。新年を迎えるとすぐに様々な伝統文化に触れることがあります。「お正月」「松の内」「鏡開き」「どんど焼」など、他にもありますが、１月だけでもたくさんの伝統行事があるんですよね。由来を知れば知るほど「へ～！そうなんだ！」という発見があるかもしれませんね！



日本の伝統文化の意味を知る

お正月

なぜ１月１日を正月というのでしょうか…？正月とは本来、その年の豊穣を司る歳神様をお迎えする行事であり、１月の別名です。現在は１月１日～１月３日までを三が日、１月７日までを松の内、あるいは松七日と呼び、この期間を「正月」と呼んでいます。

鏡開き



「鏡開き」とは、１月１１日に正月飾りの鏡餅を神棚などから下して食べる行事のことです。そもそも鏡餅とは何かといえば、日本伝統の食べ物「餅」を神仏に供える正月飾りであり、穀物神といわれています。鏡餅には魂が吹き込まれているとされていますが、そのカを授かり家族の無病息災の願いを込めて鏡餅をありがたく頂く…。これが「鏡開き」です。なぜ「開き」なのかというと、餅を「切る」「割る」という言葉は縁起が悪いので、末広がりの意味を持つ「開く」という言葉を使うようになったと言われています。

どんど焼き

お正月気分がそろそろ終わりになってきた１月１５日。この日は「小正月」ともいわれ、年末からの元旦、松の内を経て正月を締めくくる日とも言われています。この小正月の行事には、「どんど焼き」と呼ばれる火祭りがあります。どんど焼きとは、松の内まで飾っていた正月飾りやしめ縄、書初めや昨年に授与したお守りなどを燃やす（お焚き上げする）行事です。正月飾りを目印に家に来てくださった年神様（穀物神）を、正月飾りを燃やした煙とともに見送るという意味があります。お盆の「送り火」にも意味がにているかもしれませんね。

お正月の行事だけでもこれだけ色々なものがあるんですね！日本の伝統文化は近年消滅しつつあるように感じます。しかし、「なぜ生活の中にこういった年中行事があるのか」を考えた時、先人の「知恵」というものを今の子ども達と一緒に知ることが大事なのかもしれませんね！

日本の伝統行事を絵本から

日本の伝統行事は一年中行われていますが、大人でもまだまだ知らないことがいっぱいです。どうやって子ども達に伝えていけばいいのかな？と悩んでしまいますよね。そんな時にぴったりな絵本をご紹介します。四季折々の伝統行事を、大人も子どもも一緒に知ることができる楽しい時間となることでしょう。





「和の行事えほん」

春・夏編　秋・冬編

絵・作　高野紀子

出版社　あすなろ書房

お家の皆さんも「自分が小さい時にこんなことした記憶があるな」とか、「行事の意味や由来はよく知らないけれど、幼稚園などでやったかも…」といったことがあるかもしれない日本の伝統行事。この本を読むとなんだか懐かしい気持ちになるかもしれません。この絵本は、決して難しいことが描かれているわけではなく、動物たちが分かりやすい言葉で行事の一つ一つを丁寧に教えてくれます。この本を読んで感じることは、「日本の伝統文化とは家族の絆や今あるすべてへの感謝」だということ。行事の由来を知れば知るほど、この行事にはこういった意味や願いがこめられているんだな、という「知恵」の集結なのかもしれません。家族で「季節の話をしてみたいな」「伝統的なことを一緒にやってみたいな」という時にとても重宝する１冊です。

感染症が流行し、人との距離を保たなくてはならなくなったこのご時世。家族でこの本を囲んで日本の伝統文化に触れることは、懐かしい記憶と共に親となった今だからこそ伝えたい思いや生きる知恵の伝承なのかもしれません。

「えほんのもり」エピソード

感染症流行を受けて一時停止していた「絵本の貸し出し」事業。ようやく子ども達や保護者の方々への絵本の貸し出しを再開しました。久々に貸し出しとなった１２月のある週末。絵本を借りていくために幼児部のお友達が「絵本のもり」へぞくぞくと…。どの本にしようかと右往左往しながら「これだ！」という１冊を大事そうに抱えて「先生！これにします！」と、目を輝かせて借りていった女の子がいました。お母さんがお迎えに来る時間となり玄関へ行くと、「ママ！絵本借りたの！ママが好きかな？って思った絵本だよ！」と…。お母さんはニコニコ笑顔で「ほんとに？ありがとね～！」とお話し、仲良く降園されました。その光景に、子ども達にとって「絵本」が家族の中心にあるということを感じました。子ども達が選んだ１冊には、自分だけでなくお家のみなさんとの時間を待ちわびる優しい思いが詰まっているんですね！

